

南田中図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和5年10月29日(日)13時30分～15時
- 2 場所 南田中図書館 2階 会議室
- 3 出席者 利用者6名
図書館3名(南田中図書館長、館長代理2名)
- 4 テーマ 「南田中図書館に期待する図書館サービス」
- 5 配布資料 (1)これからの図書館構想の概要
(2)令和5年度実施事業一覧
(3)南田中図書館だより
(4)イベントチラシ2枚
(5)利用者懇談会アンケート
- 6 次第 (1)南田中図書館長挨拶
(2)配布資料確認
(3)図書館職員紹介
(4)図書館概要説明
(5)参加者自己紹介
(6)懇談
(7)南田中図書館長挨拶

南田中図書館利用者懇談会 会議録

1 南田中図書館長挨拶

本日はお忙しい中、南田中図書館の利用者懇談会にお越しくださいまして、誠にありがとうございます。そして日頃から図書館運営にご理解、ご協力いただき、重ねて感謝申し上げます。今年度4月から着任いたしました南田中図書館長です。よろしく願いいたします。

毎年練馬区立図書館では、10月の読書週間に合わせて、各館で利用者懇談会を行い、地域の方のご意見やご要望を伺いまして、図書館運営に活かしていくものとなっております。

過去の議事録なども、ホームページに掲載されていますので、よろしければご覧ください。

昨年に引き続き今年度、南田中図書館では、「南田中図書館に期待する図書館サービス」というテーマで、懇談会を行いたいと思っております。

南田中図書館独自ではお答えできない図書館全体へのご意見につきましては、統括しています光が丘図書館と調整して、ホームページで改めて回答させていただく場合がございますので、ご了承ください。

2 配布資料確認

3 図書館職員紹介

4 参加者自己紹介

5 図書館概要説明

- ・「これからの図書館構想」に沿って南田中図書館の事業紹介
- ・利用者懇談会アンケートについてのご案内

6 懇談

図書館 それでは懇談に移りたいと思います。よろしくお願いいたします。

利用者 事業一覧の中で気になったものがあって、「緒方貞子の生き方」というイベントがYAイベントの欄にあると思うのですが、こちらはどうしてYAイベントなのですか。

図書館 テーマとしては少し難しいテーマではあったのですが、若い世代の人にも緒方貞子という人が、どんな人物でどんな活動をしてきたかということを知って、興味を持っていただきたいという趣旨のもとで設定しております。蓋を開けてみたら、なかなか中高生の集まりは芳しくなく、大人の方が多かったという状況でした。YAイベントの集客やテーマ選びについては、今後の課題でもあると思っております。

利用者 青少年の学生たちは、テーマ自体の知識がないと、そもそも行かないのではないかなと思います。タイトルに特定の名前が出ていて、その人について知らないのと、そもそも行ってみようとならないことが多いのかなと思いました。

図書館 とても参考になるご意見をありがとうございます。図書館としても、中高生世代へのイベントというのは、おそらくほとんどの館でも少なからず課題になっているとは思いますが、興味がありそうな内容のイベントをしたとしてもなかなか参加までに結びつかないのが現状で試行錯誤しております。

利用者 南田中児童館で、「中高生の時間」というのがあると思うのですが、その時に告知をするような連携などはしてないのですか。その時にもっと具体的にイベントの内容を教えてあげたりすると良いのかなと思いました。せっかくお隣同士なのだから、もっと交流してもいいかなと思います。

図書館 以前に勤務していた図書館の話になってしまうのですが、図書館の隣に中学校が併設している図書館で、他の館よりは中高生の利用者が、若干多かったのですが、それでもなかなか中高生がイベントに来ないという状況で、併設しているメリットがあっても中高生をターゲットにしたイベントはすごく難しさを感じていました。でもおっしゃる通り、ポスターを貼ってもチラシを配っても効果が薄かったのですが、直接「こんなイベントをやるから来てみない？」と声をかけると1番効果があってイベントに来てくれることがありました。なので児童館さんのお伺いできたら、ちょっと効

果あるのかなと今思いました。ご意見ありがとうございます。

利用者 一般イベントの南書会の例でいうと、先ほど参加者の方がおっしゃっていたように、「これは一般イベントです」という出し方よりかは、それぞれのテーマに興味を持った方が参加してくださるというところがあって、中には小学生が参加してくれたこともありました。そのテーマの出し方によって、年代を問わず興味を持った方がご参加いただいとところがあるので、あまり世代ごとで括りすぎてしまうよりかは、どういうテーマを出していくかというのが、大事ななと思いますね。先ほどのイベントも人の名前を出すというよりも、どのようなテーマの話が出てくるんだろうかといったことが明確になると、一般イベントなのだけどこれは YA 世代の私たちにも興味がある、関心がある、関心を持ってそうなイベントなのかなと思う人は確かにいそいだなと思いました。

利用者 10月に村上康成さんとはたこうしろさんの対談イベントとか松岡佑子さんとか、いろいろやっていますが参加者はたくさん来ましたか。

図書館 村上康成さんとはたこうしろさんの対談イベントは、ちひろ美術館と区内3館合同のイベントをして、石神井図書館が本会場になっていて、他の館は zoom で同時中継をする形を取ったのですが、南田中図書館は25人の定員で、当日キャンセルなどもあって、20人でした。

ハリー・ポッターの翻訳者の松岡佑子さんの講演会についても同様に、5館合同で行って、こちらは貫井図書館がメイン会場になって、南田中図書館はサテライトの会場ということで同時中継をして、25人定員のところ19人の参加でした。

南田中図書館に、異動してきて実感したことなのですが、イベントの数がすごく多いと感じています。以前に居た図書館もその区の中では1番イベントが多かったのですが、それよりも南田中図書館はさらに多いという実感です。回数は多いのですが、集客数が少ないものも見受けられるという印象を受けていて、せっかく良いイベントをしているので、たくさんの方に参加していただきたいので、広報に関しては今後の課題だと捉えています。

利用者 チラシを学校に配っていたと思うのですが、今年は配られていますか。

図書館 児童向けのイベントに関しては、支援校である小学校と中学校の6校にチラシ等配布させていただいております。

利用者 ユースサポーターの活動で夏休みに読書感想文の参考になる本というテーマで小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年と中高生の設定に分けて福袋をやっていたが、印象で構わないので、どれが1番借りられていましたか。

図書館 小学生の福袋が多く借りられていた印象がありました。中学生向けは少し最後の方まで残っていました。

利用者 今回の資料の中にビブリオバトルのチラシもあるのですが、このチラシをそのまま学校に配っているのですか。

図書館 そうです。小学校、中学校向けには、それよりも少し大きいA4版のものを掲示用として何枚か送らせていただいている、加えて生徒に配れるように、小さくしたものを、人数分ではないですが数枚用意して、各学校に配布しています。

利用者 ということは、配布物を全生徒に配ってるわけではなくて図書室などに置いておく形になっているということですか。

図書館 そうですね。こちらから各学校のどこに掲示をするかは指定できないので、空いているところがありましたら置いていただいて、広報のご協力をいただいております。

利用者 お礼なのですが、去年の懇談会に伺った時に、町会の回覧板があるので、南田中図書館さんのチラシも入れてもらえるといいなという話したら、すぐに採用して下さったみたいで、ありがとうございます。毎月図書館の行事を刷ったチラシが入ってきて、私は回覧板をよく読むから、とてもいいなと思っているのですが、効果はいかがですか。

図書館 ありがとうございます。広報の部分で課題に感じていたのは、私が着任する前からもあったと思うのですが、回覧板のアイデアをいただいて、早速取り入れて効果は大きかったと実感しております。こちらこそ心から感謝しております。今は1000枚ぐらい配布しています。

図書館 イベントの申し込みの際に、イベントの情報をどこで知りましたかということをご参考までにお伺いしているのですが、「回覧板を見た」という回答がすごく多くて、効果があったと思っております。

利用者 回覧板ですから、みんな見ますので、どんなことを図書館でやっているかというのは、地域の人としたら私はいいなって思いましたので、どの程度効果があるか、ちょっと今日は伺えてよかったです。

利用者 8月に児童イベントのところでプログラミングワークショップを2回行ってらっしゃると思うのですが、なぜタイトルが違うのですか。

図書館 2回とも別のプログラミングの講座で、1回目は「こくり」という、スマートフォンで、ロボットを操作するキットがありまして、それをパソコンとつなげてパソコンの方でプログラミングをすると、ロボットがプログラムされた通り動くというものです。手を上げたり、顔動かしたり、喋ったり、あとは音声認識したりもします。

それから2回目のワークショップはパソコンメーカーにご協力をいただいて、「こくり」とは違うプログラミングの講座をやっています。

利用者 どれくらいの参加者がいて、年齢層はどれぐらいでしたか。

図書館 端末を借りられる台数の制限があるので「こくり」の時は、小学校低学年と高学年で5人ずつやったのですが、両方ともすぐに申し込みがいっぱいになって、小学校低学年は1年生から3年生で、高学年が4年生から6年生でやりました。今回は申し込みがあったのですが、当日キャンセルが出たので4人の参加でした。

2回目のワークショップが5歳から8歳までの部と、7歳から12歳の部に分けて、

それぞれ、定員が8組と10組でやったのですが、1部の方が7組で、2部の方が8組来ました、両方とも満員だったのですが、当日キャンセルが出てしまいました。

図書館のイベントの傾向としては、ほとんどが無料のイベントなので、気軽に申し込める反面、当日キャンセルがどうしても出てしまうというのが現状です。

利用者 2回目のワークショップの方はどのような内容でしたか。

図書館 1部と2部で内容が違って、1部の方はタブレットを使って、自分で物語を作っていくのですが、タブレット上の素材集から自分でキャラクターなどを選んで、画面上に置いていって、その動きを機械に記憶させていく感じです。今回は桃太郎の話がテーマだったのですが鬼ヶ島の背景があって、そこに好きなキャラクターを子どもたちが出して好きなように動かしていくのですが、素材の中にちょっとしたギミックが入っていて、特定のものと特定のものを合わせると特定の動きをすとか。例えば、鬼に金棒を近づけると、鬼は金棒を持てるけど桃太郎は持てないとか、桃に金棒を近づけても割れないけど、包丁を近づけるとぱかっと割れるとか、プログラムされていることを自分たちなりに考えて、いろいろ楽しみながら試して、プログラミングを体験しました。2部の高学年の方では、将棋の盤面のようなマス目があって、キャラクターがマスの上において、パソコンで「1歩前に進む」「右を向く」などのコマンドがあるので、それを順番にプログラムを組み合わせさせていって、ゴールのところまでキャラクターを動かすとかですね。だんだん難易度が上がったり、最も少ないプログラムでクリアするにはどうしたよいか考えたりしました。

難易度が上がっていくと大人でも難しかったのですが、子どもたちは楽しみながらいろいろなことに挑戦していました。

利用者 スクラッチのようなものではなく「こくり」さんだったり、「レノボ」さんだったり、用意してくださったプログラミングを使用している感じですか。

図書館 桃太郎の方は完全オリジナルアプリで、後半のゲームの方は、学校でも採用されているところがある「みんなのプログラミング」というツールです。

利用者 ちなみにこれはYA向けの方向も発信していくようなことを考えていたりしますか。私はアルバイトで、小学校でちょっとしたプログラミングを教えているのですが、小学校のプログラミングツールというのは、あくまでプログラミングの考え方を学ぶものであって、ゲームとしてのプログラミングに実際に親しむっていうものでは必ずしもないと思っています、私は。それでそこから1個ステップアップして、専門学校でプログラミングをやるという方はいっぱいいると思うのですが、小学校から専門学校までの間に何かしら触れるものがあるといいなと、プログラミングをやる人間としては思っていて、スクラッチとか、ではなくて用意してくださったものを利用したプログラミングワークショップっていうのが図書館で開催できるっていうのは、すごく面白いことだなと思います。もし何かあれば、YA向けにやっても、これは面白いのではないかなと思います。

図書館 「こくり」は小学生向けなのですが、「レノボ」の方は中学生には若干物足りなさはあるのかもしれないのですが、YA 向けのイベントで出来ないか、先方に相談してみる余地はあるかと思います。先方の都合もあるので来年度に実施できるかどうかは、まだわからないのですが、提案していきたいと思います。

図書館 小学校でプログラミングの授業が始まったばかりなので、おそらく作る企業側も初等の教育をターゲットにしているものが多いのかなと思います。

利用者 プログラミング教室の先生みたいな方が「こういう風にプログラミングをやるんだよ」という指針だけでも、示してあげられるといいなとは思っていたので、こういう図書館のプログラミングのイベントをやってらっしゃるのは、すごくいいきっかけだと思いました。

図書館 ありがとうございます。

他に、大人向け事業でも子ども向け事業でもイベント以外でも構いませんのでご意見ありますか。

利用者 イベントではなくて南田中図書館全体の利用状況というのは、いかがですか。13 館くらいあると思うのですが。

図書館 南田中図書館は規模としては練馬区では下から数えた方が早いぐらいの規模の館で、蔵書の数もそれに見合った数で約 11 万冊です。大きくて蔵書が多い館と比べてしまうと、利用者数というのは少ないのですけれども、あくまで私の印象ですが、この規模の館の割には、来館者数は多い方かなと感じております。イベントが多いので、その来館者さんもいると思います。年齢層は、どこの図書館も似ていると思いますが高齢の方が多いです。南田中図書館は小学校と併設していますが、特別に小学生が多いかと言われれば、そこまではないかなという印象です。放課後に直接図書館に来られると利用は多くなるかもしれないのですが、寄り道になってしまうので、一旦家に帰ってしまいます。そうすると併設していない館とあまり変わらなくなるのかなと思います。休みの日は他の図書館と同様にそれなりに子どもが多くなります。

利用者 おはなし会をやっても語りを聞いている人が来るというよりは、ご近所の方が結構多いのは、他の館とは違って、南田中図書館の特徴ねっておはなし会仲間に言われます。だから小さいけれども地域の図書館という感じがするという感想を聞くので、それはそれで、私はいいのかなと思います。歩いて 10 分ぐらいのところに図書館があって、今はみんなインターネットで、借りたい本を調べて、南田中に所蔵してなくても、他の館から取り寄せてもらえて、南田中で受け取れるので、あんまり蔵書の数は気にしてないし、その館に全部ある必要はないと思います。やっぱり地元の方が気軽に利用できる図書館というのは、私はいいなって思っているのですが、規模の大きい小さいよりも、歩いていけるとところに良い雰囲気のある図書館があるというのは、いいことだと思います。

図書館 うれしいお言葉ありがとうございます。開館当初からコンセプトとして、「ご近所図

書館」というものを掲げているので、そう言っていただけると本当に嬉しい限りでございます。

利用者 出張おはなし会というのは、図書館の方が行かれるのですか。対象は幼児ですか。

図書館 図書館のスタッフが、それぞれの施設に出向いておはなし会などをしています。

子ども向けに読み聞かせも行っておりますし、デイサービスなどの高齢者施設にも行って、おはなし会をしたり、脳トレのような体を動かすレクリエーション入れたりして、対象に合わせたものを実施しております。

利用者 私もふるさと文化館でやる機会が多いのですが、図書館で実施する時には、どのような内容ですか。

図書館 ちょうど10月と11月に子ども向け出張おはなし会を行います。昨年度までは、分室をお借りして行っていたのですが、今年度から本館の会議室を貸していただいて、10月に実施した時には、お子さんと保護者の方を合わせて50名ほどが来ました。

利用者 事前に申し込みを受けるのですか。

図書館 はい、申し込み等は、ふるさと文化館の職員さんが、管理してくださって、図書館側は当日にふるさと文化館にお伺いして、読み聞かせや歌なども交えて行いました。昨年度と会場が変わったこととコロナも続いていることもあったので、どれぐらい人が集まるか不安だったのですが50名も来ていただけました。親子でご参加いただいている方が多かったです。

利用者 随分たくさんやられてるんですね。出張おはなし会で読み聞かせだけではなくて、対象に合わせたことをやっているのはいいですね。

利用者 ビブリオバトルや本の福袋はユースサポーターが主導でやっているのですが、YAイベントに入っているかと思うのですが、最初からYAイベントとして振り分けられているイベントは、こういった意図でYAにしているのですか。

図書館 ビブリオバトルに関して言うと、小学生でも取り組んでる学校もあるのですが、中高生あたりからが、表現したり発信したりする力がついてくるので、YA世代がよいのではないかと考えています。

以前に居た館の話で恐縮ですが、中学校と併設していて、扉1枚開けると図書館と繋がる学校だったのですが、昼休みにその扉を開けて、中学生が図書館を利用できるようになっていて、昼休みに図書館で中学生と図書館員でミニビブリオバトルを開催してよく戦っていたので実感としても、やはりビブリオバトルの対象としては中高生以上がよいのかなと思っています。

利用者 YAを対象にしたイベントっていうのは今後も開催されるご都合はあるのでしょうか。

図書館 ぜひやりたいと思っています。やはり中高生向けのイベントは課題でもあるので、そこに向けてどう取り組んでいくかというところは、ちょうど来年度の企画や事業を決めていく時期ですので、YAイベントについても検討していきたいと話合っている

ところでございます。

利用者 ユースサポーターの活動日の中では、10月の「ハリー・ポッターの魅力」のイベントについての話しが結構盛り上がっていて、そんな感じでYA世代の中にも一般のイベントに興味を持つ人はいると思うのですが、だからといって、YAの枠組みがあっちはいけないというわけではないのですが、一般のイベントにも「和綴じ本を作る」とか、面白そうなものがあると思うので、年齢層を広くとって一般みたいにしちゃうのかなと思っていたのでYAのイベントをこれからもやっていきたいと、おっしゃってただけで、ちょっと安心しました。

利用者 中高生はマンガをよく読むでしょ。だから中高生が普段興味持ってるようなものが入ってくると、もっとたくさん参加があるかなと思いました。

利用者 ライトノベルは、こういった感じで選んでらっしゃいますか。若者向けのレーベルがあると思うのですが、そういったレーベルはどういう基準で選んでらっしゃいますか。

図書館 YA担当が今同席していないので、正確なことはお伝え出来ないのですが、一般的には、レーベルで選ぶというよりは、まだ所蔵していない本にリクエストが入ったり、予約が入ったりしたものを参考にしたり、あとはリクエストだけだと偏ってしまうので、こちらの方でバランス取って選書をしています。

図書館 ヤングアダルト世代といっても中学生から高校生、大学生ぐらいや就職する前までとしてはいるのですが、どこの部分に力点を置いているかということで、いろいろ変わってきて中学生がメインなのか、高校生がメインなのかというのがあります。

新しいものを入れるとなると、どの辺がいいのだろうかとか大人が選ぶと迷ってしまう部分もあるので、ユースサポーターの活動で意見を伺うなど、若者の意見を参考にするようにもしています。

利用者 活字離れの話は、懇談会をやると毎年出てくるのですが、イベントを通じて感じるのは、マンガばかり読んでいるわけではなく、結構読み込んでる人たちはやはり読み込んでいるというのは実感としてあります。なので、あまり大人がYA世代の人たちが本を読まないといって決めつけてしまうのは非常に危険だなと思っています。

世代別でカテゴリーにわけるのはすごく楽なのですが、それは世代間の交流がなかなか生まれなくなってしまうだろうなという感想は持っています。南書会の話になってしましますが、対象は「中学生以上」になっているけれども、以前小学生が来たときがあって、対等に話をしてまし、参加している我々も、小学生だからといって下に見て言葉を選んだりはしないで、すごくいい空気が流れていました。中高生向けイベントの難しさというより、交流の難しさですかね、難しいけど大切というのは感じます。紙の方もやはり読んでる人も少ないけど、電子書籍すらも読まない人も今は確実に増えている。活字を目で追うという習慣がどんどんなくなっているというのは若者

だけでなく大人もじゃないかな。

利用者 児童館に来る人たちというのはどんな子ですか。中学生とか高校生とかは、やはりあんまり本は読まないんですか。

利用者 やはり本よりも身体を動かしたいという子が多いかなと思います。ボールで遊んだりもしていますが、あと今は、友達と話す感じでしょうか。話す場所というか居場所がなかなかないからか、児童館では席を囲んで5人とかで喋っていることが多く見られますね。

図書館 図書館というより区全体で中高生の居場所づくりというのは課題になっているなかで、図書館はやはり大きい声では喋れない施設なので、なかなかおしゃべりをしたい中高生を呼び込むのは難しいのですけれども、会議室などをイベントで使ってない時には閲覧席として開放したり、あとはYAコーナーにも中高生の優先席を設けたりして、なるべく気軽に足を運べるようにはしています。

利用者 この「ビブリオバトルを体験しよう」というイベントは小学校から大人まで誰でもできるのはいいなと思って見ていたら、定員が10人だけになってるのもったいないと思いました。この部屋は20人くらい入ると思うのですが、バトルでマンガも雑誌もいろいろできるなら、もっと来るのではないかなと思います。

図書館 イベントの性質上、ビブリオバトルというのが、書評合戦と言われているのですけれども、自分のおすすめの本を発表して、どの本が1番読みたい本かを参加者で投票して選ぶイベントなので、あまり人数が多すぎても時間的に難しくなってしまうので10人ぐらいでやっているというのもあります。

利用者 私は光が丘でビブリオバトルをやった時に参加したのですが、その時はもっといました。あとリーダーになってくれる方と呼んでから、その指導のもとにやっていました。南田中は年齢の幅が広いから、10人はちょっともったいないなって思っていました。面白いんですよ。本当に。

利用者 チラシにもあるのですが、少人数でやるのがコンセプトになっていて、大勢の人前で喋るのが緊張するような人が参加できるように、少人数でやろうかという話から始まった企画なので、確かに定員を増やす方が人は来るのかもしれないけど。

利用者 当日欠席する人もいるとしたら、せめて15人ぐらいにして、5人を3グループぐらいに分けてやるのもいいのかなって思いました。

利用者 バトルの様子を見たりすることはできないのですか。

図書館 見学もできます。

利用者 このチラシだと見学だけでも参加していいということがわかりづらいかもしれません。私はビブリオバトルをテレビでは見たことがあるのですが、リアルで見たことはないので、近所でやっていたら覗いてみたいと思います。自分が参加するのはちょっと緊張するけど、覗いてみたい。

図書館 今のところ定員10名でやっていますが、実際には満員にならないので、今後増えてき

たら、定員を増やすことも検討したり、少人数でやるというコンセプトも踏まえて、別枠で実施したり、あとはグループに分けてやってみるのも、検討していく段階に行くのかなと思います。

利用者 南田中でビブリオバトルをやろうって言い始めたのは私なのですが、やろうって言い始めた時に、他の館で大規模にやっていて、南田中ではまずは小規模にやってみようかという話だったのですが、確かにもう少し広げてもいいのかなと思います。

利用者 SNSは活用してらっしゃいますか。

図書館 図書館ではなく、練馬区としてX（旧 twitter）とLINEのアカウントはあって、そこに図書館が記事を上げてイベントの告知などをさせていただいています。X（旧 twitter）ですと、気軽にUPできるところが利点でもあるのですが、現在は記事の掲載の申請を3ヶ月前ぐらいからしているのが現状です。できれば館独自でもアカウントがあると、広報がしやすいのですが、今後も協議などできればと思います。ちなみに以前に勤めていた図書館では、館独自でX（旧 twitter）のアカウントを持っていたので、イベントの集まりが思わしくなかったら、すぐにSNSで宣伝をできたので、広報にはすごく役立っていました。

利用者 区の青少年のサイトがすごい見にくくて、どこから見ればいいのかわかりません。

利用者 青少年に限らず、すごい見にくいという話は出てますよね。情報知ろうとしたらなかなか届かないという感じです。

利用者 イベントの活動実績を出してらっしゃるじゃないですか。ユーサポーターの活動実績も見られるのですが、あっち行ってこっち行ってあっち行ってみたいな感じで、スムーズにたどり着かないです。多分中高生はそこまでしないので、あまり見ないです。

利用者 練馬区は図書館としての、X（旧 twitter）やfacebookのアカウントは持っていないのですか。

図書館 持っていないのですが、図書館としてはyoutubeチャンネルがあります。

利用者 各館でSNSのアカウントを持てたら、広報にも役立つし、館の特色が出て愛着がわくし、図書館に興味を持つようになるし、面白いと思うので、SNSをやってほしい。

利用者 SNSの選択肢の中にinstagramというのがありますか。

利用者 うちも委託されたところでやっていますが、インスタまではやっていなくて、X（旧 twitter）も図書館と同じようにUPするには、やはり区の方に申請を出して、それが全て一言一句許可がおりたら、やっとX（旧 twitter）があげられるというシステムなので、本当はすぐにつぶやくことができれば1番良いのですが、なかなかいろいろな事情があるのかもしれませんが、だんだんよくなっていくのかなと思います。多分、区民の皆様も、きっとご不便なのだろうなと感じています。

利用者 「和綴じ本をつくる」とか、ビブリオバトルとか、明確に成果物があるイベントと

というのは、その成果物を写真に撮りやすいと思うので、それは instagram にすごく向いているのではないかと考えて、「イベントでこういったものができました」、「こういうイベントでした」というのが、後からでも写真という形で見られると、こんな内容なら次回参加してみたいと思ってもらえたり、興味を持ったりするのではないかなと思います。やはり活動報告が中高生にとっては、ちょっと事務的に見えてもったいないという気持ちもあって、もっと楽しい雰囲気を表現できるといいのかなと思います。

図書館 事業報告として、ちょっと検討してるのは、入り口にあるサイネージという電子掲示板に、イベントの報告を載せてみてもいいかなと考えているのですが、参加者さんが映り込んでいると、嫌がる方だったり許可が必要だったりするので、成果物だけだったらハードルも高くないので、載せてもいいよと言ってくださる方もいるかなと思いました。たしかに今回のイベントには参加できなかったけど、次に参加してみたいと思っていただけるような、イベントの雰囲気がわかるような広報のというのは非常に大事かなとは認識しております。

利用者 すごくたくさんイベントされているのだなということを私は知らなくて、すごいなと感じたのと、あと海外の図書館だとやはり憩いの場というか、ふらっと来てくつろげる場所みたいな図書館を目指しているところもあって、南田中図書館も多分同じだと思うのですが、正面の駐輪場のところが結構広いので、秋晴れの時とかに、ちょっと外に座るところがあって、青空のもとで本を広げてゆったりできたらいいなと思いました。館内だとお喋りもできないでしょうけど、外だったらお喋りしながら、本を読みながらというのができたらちょっと素敵だなと思いました。中高生の溜まり場みたいになってもいけないとは思うのですが。立地的にも、とても静かで落ち着いているのでいいかなと思いました。

図書館 外で読書という点では「井のいち」というイベントで、氷川神社の奥に小さな広場があるのですが、そちらの方で図書館の本を持って行って、木漏れ日のなかで読書ができるというイベントがあります。ベンチなどを常設となるといろいろ課題が出てきそうですね。

利用者 私は個人的にフィンランドが好きなのですが、フィンランドの図書館は利用率が高く、カフェが併設してたり、基本的にゆったりとくつろげる場というか、憩いの場というのがコンセプトになっていて、建物自体が広々としているというのもあるのですが、なんとも言えないのですが、私にとって図書館は、やはりほっとする場というか、本の匂いとか、本の雰囲気とかで、心が落ち着けたりする場でもあるので、外にベンチがあるといいかなと思いました。

利用者 ちょっと疲れたなと思って座れるといいわね。外でちょっと借りてきた本を読みたいとか、外でちょっとおしゃべりしたい時に、立ち話するのが疲れちゃうから、1つぐらい外にベンチがあっても、そんなに溜まり場にはならないと思うけど。

図書館 私も図書館の外でくつろげる場所があったらいいなと思っていて、考えたこともありますが、常設という形を取ると、閉館時に寝泊まりをしてしまう人がいたり、溜まり場になってしまったり、季節によっては蚊がいたり、盗難や台風で飛ばされないように固定したり、課題が多いなと思いつつ、なにかいい手はないかなと思っております。

利用者 館内でちょっと読んでみたいけど、いつも椅子がいっぱいなんですよ。雑誌なんかでも読むのに、場所があるといいなって思います。

図書館 ご不便をおかけしております。南田中図書館はコンパクトということもあり、もうすでにできる限り椅子を置けるところには置いてはいるのですが、車いすの方やベビーカーの方も来館するので、ある程度スペースを確保しなければいけないというのがありますし、椅子と棚の距離が近いとその棚を見たい人と座っている人がかぶってしまい、どちらも気を使ってしまってくつろげないということもあるので、なかなか難しいところではあります。確かに図書館界全体としても、借りて帰っていただくだけの図書館よりは、滞在型に変わりつつあるのですが、昔に建てられた図書館ですと建物自体が、それに対応してないので、今後建て替えや新しくできる図書館というのは、それに対応した形が多い傾向ですね。あとは、ゾーニングとって「YAの部屋」や「児童の部屋」といったように、それぞれが壁などで区切られていても、ある程度自由に話しをしても大丈夫という工夫がされてたりするのですが、先ほども申し上げた通り、一昔前の図書館だと、やはり、その機能がうまくできてないので、南田中図書館では今の状況のなかでいろいろと工夫しております。

利用者 1階の自動販売機の横のロッカーは利用されてますか。

図書館 ロッカーを使われてる方はいます。多くはないという状況ですが、ゼロではなくて、やはりロッカーがあると助かるというご意見もあるようです。

利用者 12月以降のユースサポーターの活動について、今まで私が参加してきたなかで1番メンバーが主導で行った活動が多くあって、それがすごく、ありがたかったです。参加者が大勢いて、もうやることがないというのも面白なくて、面白くないとやっばり来なくなってしまうので、スタッフさんが毎回準備をしてくれて、参加できるサポーターは参加して、できないサポーターはお休みしてという、ある程度自由な部分もあって、そういう無理のない形で図書館のことに関われるのが、すごく助かっていますし、すごく嬉しいです。ありがとうございます。

図書館 図書館としても、直接中高生の意見や思っている事などを聞けるのは貴重な場で、選書についてもご意見を参考にさせていただいて、とても助かっているの、今後ともよろしく願いいたします。

利用者 今は、ユースサポーターは何人いらっしゃるのですか。

図書館 現在13人です。毎回の活動日には大体その3分の2ぐらいが参加しています。部活の大会があったり、テストがあったりでみんなさん予定があるので、必ずしも毎回

来てるというわけではないです。内訳は、中学生が多くて7~8人です。高校生と大学生もいます。

利用者 具体的にはどのような活動なのですか。

利用者 先月は2階のYAコーナーの展示を私たちサポーターが担当して、おすすめする本を展示しました。あとはYAコーナーのガラスの面の装飾を作りました。あとビブリオバトルやおはなし会も企画して開催しました。図書館でこんなことをやってみたいということを提案して、図書館と一緒に作り上げていく感じです。なので、これやりたいなっていうことを実現させていただける場所ではあると思います。図書館の都合もあるので必ずしも実施するとは限らないですが。それでも最近は特にやりたいなと思ったら出させていただく機会が増えてると思います。

利用者 すごくいい取り組みですね。

図書館 ありがとうございます。

あっという間に時間になってしまいました。以上を持ちまして終了したいと思います。本日は、お忙しい中ご参加くださり、貴重なお意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。いただきましたご意見に関しましては、今後の図書館運営に活かしていければと思います。今後とも引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。懇談会以外でも、気づいた点がありましたら、いつでもお気軽にお声をかけていただければ、お話ししたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。